第６回　津島市総合計画審議会議事録

日時：令和３年６月 25 日（金）
午後２時から
場所：津島市役所５階　第１委員会室

（出席）
江口忍委員、千頭聡委員、三浦哲司委員、伊藤久夫委員、青木啓委員、浅井彦治委員、
石原弘乙委員、加藤文規委員、小出英一委員、小坂井智弘委員、佐藤彰記委員、古江俊博委員、
横井一雅委員、服部綾子委員、吉田祐衣委員
（欠席）
前田明美委員、安田清時委員、山本達彦委員

【配布資料】
次第
資料１　津島市総合計画審議会委員名簿
資料２　第５回津島市総合計画審議会議事録
資料３　答申書（案）
資料４　第５次津島市総合計画（案）序論・基本構想・基本計画総論
資料５　第５次津島市総合計画（案）分野別計画

１　開会

（会長）
皆様こんにちは。
いよいよ最終回になった。本日は答申をまとめて、市長に答申をさせていただきたい。よろしくお願いいたします。
本日残念なニュースがある。国勢調査の速報値が発表された。全国の人口も減少しているが、津島市の人口も R2（2020）年 60,958 人で、H27（2015）年は 63,431 人に比べて約-2,500 人、減少率では-3.9%、市だけでいうと、県内で、新城市、田原市に続いて 3 番目の下げ幅になっている。４番目は愛西市である。かなり際立った人口減少をこの５年間でしてしまったという状況である。
総合計画案の 18 ページに掲載しているどの人口推計よりも低い状況である。非常に人口減少が厳しいという内容である。この時点で総合計画を修正することはしないが、最終的に決まったものについて、具体的に進めていく際に、従前以上に人口を意識することが必要だと思う。
では、まず議題１について事務局から説明をお願いしたい。

２　議事

（１）答申書（案）について

（事務局）
　資料３に基づき、答申書（案）について説明。

（会長）
　答申書（案）にご意見はありませんか。
　私自身も、事務局案が上がってきたものをみて、委員の皆様の意見を網羅されていると考えている。
　これでよろしいか。

（委員（全員））
　異議なし。

（会長）
　本審議会の答申書を決定します。
　議題１「答申書（案）について」はこれで終了します。市長への答申に入りますので、事務局にお返しします。

（事務局）
　ご審議いただき、ありがとうございました。
　次第３「答申」について、会長から市長に答申書等を手渡していただきます。

［市長入室］

３　答申
［会長から市長へ答申］

（市長）
　会長をはじめ委員の皆さまには、熱心なご議論と貴重な意見をいただき、ありがとうございました。
　10 月に当審議会に諮問をさせていただいた。委員の皆さまには、津島のまちづくりを思い描いた上で貴重なご意見・ご指摘をいただいた。委員の皆さまからいただいたご意見はできる限り計画案に入れさせていただいたつもりである。
　取組を進めるにあたっては、さきほどの答申のご意見をしっかりと受け止めて、施策を打ち出し、着実に進めていきたいと考えている。ありがとうございました。

４　意見交換
（会長）
　次第４の「意見交換」について、委員の皆さまからお一言をいただきたい。本計画のよいところ

や今後意識してほしいところ、まちづくりの思いなど、ご自由に述べていただきたい。

（委員）

審議会の議論で勉強させていただいた。

進行管理、場合によっては市民による外部評価が大事だと言わせていただいた。答申書の付帯意見にも入れていただいているが、伝えることと伝わることは別である。10 年間の中で、行政のこうしたいという思いを伝えるとともに、伝わったかどうかを確認をしながら進めていただきたい。

そうすれば、人口減少に負けない素晴らしい津島市になると思う。

ありがとうございました。

（委員）

３点コメントをさせていただく。

１つ目は、これからいかにこの計画を回していくのかが大事であり、計画を作ったことがゴールではないことを、本計画に関わった方が認識・意識する必要がある。

２つ目は、これからの時代は、激変が予測される。これまでの 10 年間とこれからの 10 年間は質、内容ともに変化する。その中でどうしていくのかを考えると、計画どおり進めることも重要だが、柔軟な対応は必要だと思う。

３つ目は、津島市のオンリーワンが何なのか。わかったようなわからない感じがある。三重県内の市町村も含めたマーケットでどうオンリーワンを発揮して、若い方々を取り込むことが大事である。

人口の奪い合いが良い悪いは別にして、人口減の時代では、行政も変わらなければならない。他にはない価値＝オンリーワンを打ち出して、発揮していかければいけないと思う。従来の発想ではなく、マーケティング発想が必要だと思う。庁内で検討していただきたい。

（委員）

さきほどの委員が言われたように、マーケティングの視点を持っていただきたい。

１年目のスタートダッシュが肝心である。特に留意してほしい。

（委員）

10 年前の第４次総合計画も参加しているので、２回目の参加である。コロナ禍、目まぐるしく変化するなかでの計画策定は、事務局の苦労があったと思う。感謝申し上げる。

地域情報化、ICT、IoT に目が行く。地域 DX の担い手の一端として、市とともにやっていきたい。

（委員）

お疲れさまでした。

私自身は最後の会議になると思い、参加した。気持ちとしては、１年長かったという意見もあるが、私としては短かった。

トレンドが気になっている。10 年後、20 年後のわかっていることは、もう少し議論したほうがよかったと感じている。例えば、人口のことは前からわかっていたことである。10 年、20 年のトレンドはかなりの確率で来る。そういうことを議論ができるとよかった。勉強になった。

（委員）

初めて本審議会に参加した。議員の皆さんにも聞いていただいて、審議会での意見が少しでも行政で実現することを見守っていただけたのかと思う。

コロナ禍で、第３回ぐらいからいつもと違う雰囲気で開催をせざるを得なかった、特別な時期に作った計画である。答申書の４つ目の意見にあるように、柔軟に見直して、対応してもらえればと考えている。ありがとうございました。

（委員）

できあがった総合計画案をみて、意見交換をした結果、立派な計画ができあがったと思う。計画をいかに実行していくかが重要である。進捗状況を定期的にチェックして、経済情勢の変化にも対応して、必要があれば見直しも行って、求められるまちづくりを進めていただきたい。

私自身も、津島のまちについて知らないことが多かった。今まで以上に津島のまちに関わっていかなければならないと感じた。ありがとうございました。

（委員）

私には故郷が４つあり、生まれた名古屋、育った大垣、愛西、住んでいる津島である。その中でいちばん愛着があるのが、津島市である。津島市が良くなればよいし、悪く言われるのはいやである、ということを思いながら過ごしてきた。

計画の策定を通して、津島のことを考えてもらえるのはありがたい。審議会の皆さんが案をもとにして、津島がどうなっていけばよいのかという知恵をもらえたことは、津島にとってはうれしいことである。

今後もたくさんのことがあるとは思うが、まちづくりをバックアップする職員がいる。10 年先を楽しみにしている。

（委員）

全６回のうち、２回は私事で参加できなかった。一市民としてなかなかない体験だと考えている。計画の内容についていろいろと考えたし、市が考えていることを知ることができた。貴重な経験であった。

10 年後は、一番上の子どもが 22 歳、下の子どもが 10 歳、いろいろな面で、津島の子育て、福祉、教育の面で実感をできる時期だと思う。10 年の変化を身をもって体験していくことになる。

ありがとうございました。

（委員）

総合計画の内容はとても素晴らしいものになっていると思う。しかし、失礼ながら、1 年間審議

会に参加させてもらって、総合計画の策定は本当に必要なのかなと思った。１年間という長い時間と、資料作りに係る人件費や紙代、印刷代などのかなりコストがかかっていると思うが、第４次総合計画と内容に差異がないように感じた。

他の市町の事例で、神奈川県の藤沢市では、総合指針として重点化プログラムを位置づけている。この形ならば社会情勢の変化に対応しやすく、わかりやすい体系、更新が容易であることから、策定に係る時間や経費を抑制することができるメリットがある。

岩倉市は基本施策評価シートを作って、表になっていてPDCAがわかりやすく、透明性の高い市政運営ではないかと思う。令和３年から外部評価委員を公募して、評価を進めている。

名古屋市では、行政評価を実施して、市政アンケートでは市政の関心が高まった、取り組んでいる事業への理解が深まったという意見もある。

他の自治体のまちづくりへの取り組みを参考にして、進めてはどうかと思う。

職員が総合計画策定という膨大な作業に尽力されていることを知って感謝するとともに、私自身が子育て、健康づくり、市民活動、コミュニティ等、津島市が住みやすいまちになるようにできることは協力したい。１年間ありがとうございました。

（委員）

私には３つふるさとがある。旧佐織町、新宿、職場である津島である。

マーケティングは生き物であって、算出方法、スケール、形が変わる時代であり、過去10年のものは使えない、新しいシステムの構築が必要である。

ちょうど100年前の津島は、今の状態と同じく、スペイン風邪の流行を受けてマスクをかけている。そこから立ち直っていった。そこにもヒントがあるのではと考えている。

進捗管理とマーケティングは今後も外せないと思う。新しいスケールで、PLAN、DOを進めていかなければ、どこかにランディングできないと思う。

今後もお手伝いさせていただければと思う。一年間ありがとうございました。

（委員）

市政がどのように考えて、市民に働きかけていくかがわかった。

資料作りや会議をした経験があるが、通常の業務を進めながら、こういったものを作り上げていくことは大変なことだと考えている。

最初の１年が大事だと思う。市役所の温度が熱いうちに何らかのパフォーマンスをして、津島市は変わったと思ってもらうことが大事である。まずはパフォーマンスすることが大事である。勉強になりました。ありがとうございました。

（委員）

今回初めて参加した。大変勉強になった。

答申にもあるように市民と一体となって取り組んでほしいとあるが、一人ひとりに参加してもらうこと、伝えることは大変であるが、やっていってほしい。

津島市でもいろいろな企業があり、特色があり、できるものがある。地元企業も一緒になって、

取り組んでいけるようなものもあれば、従業員、家族という広がりも考えられる。地元企業ともつながりを持ってやっていくとよいと思う。

（委員）

参加させていただきありがとうございました。

総合計画の内容をより多くの市民にわかりやすく知ってもらえることで、まちづくりの方向性を共有できる。答申の付帯意見にあるように、各部署が、計画に基づいて、何を、どのように解決するのかを日ごろの業務に落とし込んでいくことが大事である。進捗管理、マネジメントをしていただいて、進めてもらえればと思う。

津島市の魅力は、人のつながり、市民のコミュニケーションの機会の多さであり、大都市に勝る強みである。

地産地消、地域の農業振興を通じて魅力ある津島市のまちづくりに貢献したい。人の集まり、にぎわいを取り戻すために、コロナの収束に向けて、大変な労力があると思うが、引き続きお力を発揮してもらいたい。

（会長）

まずはみなさまにお礼である。もしかしたら、皆さんにご迷惑をかけたり、ちゃんとしてほしいという気持ちもあったかもしれないが、ご協力をいただき、ありがとうございました。

総合計画はいろいろなタイプがある。地元の参加が多いタイプ、大学の先生が多いタイプ、業界団体が多いタイプなどがある。津島市は地元の参加が多いタイプである。この場合、往々にして、意見をためらうことがおきて、議論が深まらないこともある。しかし、今回の津島市総合計画審議会は積極的にご意見をいただくことができた。非常にありがたく思っている。

他の委員の意見にあったように、会議をもう少し開催できるとよかったという意見があり、同意見である。活発に意見交換ができる会議であったので、もう少し時間をかけて、津島市は特にどこを目指すのか、どこが強いのか、弱いのかをより掘り下げられるとよかったという気持ちがあり、生煮え感がやや残った。

総合計画はいらないのでは、という厳しいご意見もあった。半分くらいは同意するが、いろんな計画の上位の概念として、このまちはこういう方向に進んでいくんだという計画は、必要だと思う。ただし、今後 10 年間にいろんなことに目配せしながら策定する総合計画のスタイルは適切でないような感じがしており、それ以外の方法はあるのではないかと思う。

世の中の移り変わりが早い中、途中で計画が邪魔になることもあるかもしれない。運用する場合には、上位の計画として大事していかなければいけないが、状況が変われば柔軟に対応していく必要がある。

国勢調査の速報値から、人口はすでに計画の推計値を下回り、マイナスからの出発である。人口獲得が厳しい、隣の市町から人口を奪うことが、国全体で見たときにそれがハッピーなのかは議論があるところではあるが、一自治体としては奪わざるを得ない。

今回の計画では、周辺市町を強く意識して人口を奪っていくことは打ち出していないが、津島市を発展させる重要なポイントになるようなことは入れ込んでいる。この辺りを庁内で共有して、

運用はしっかりとしてほしい。委員のみなさま方、ありがとうございました。

５　閉会・市長あいさつ

（事務局）

委員の皆さまには６回にわたり、第５次総合計画案の審議・意見をいただき、ありがとうございました。

（市長）

６回にわたる審議をありがとうございました。

５年ぐらい前から職員に「価値を高めよう」と言ってきた。これがこれからの生きる道である。個人、家族、職場、地域の価値を高めることが大事である。時代を生き抜くキーワードではないかと思う。

そんな時に、コロナ禍で世の中の価値、世界の価値が激変した。もちろん企業の価値も大きく変わった。

その中で、デジタルの遅れが注目され、コロナによって、デジタル、DX、教育のタブレット等が進められて、この１年間で 10 年分の価値を変えるようなことがあった。

そのように急激に変化する中では、次の 10 年間の第５次総合計画の特徴をあげることはできないというジレンマがある。

津島の価値は、歴史・文化がある、東京から１～２時間で来ることができることなどである。また、コロナで働き方が変わり、テレワークなどで東京にいなくてもいいということになり、これは津島のチャンスである。

コロナ禍で厳しい時代ではあるが、様々な形でチャンスが与えられていると考えており、津島のまちづくりを戦略的に進めていかなければいけない。少子化・人口減少が進み、地域間の奪い合いが起こるかもしれないが、もっと大きな視点で津島を語っていくことも重要で、成長戦略につながっていくと確信している。

住んでみたい、住んでよかったというまちにしたいと同時に、幸せが実感できるまちであることも重要である。ある企業のトップは、幸せの量産、幸せのつかみ方、幸せを仕事のど真ん中にと言っている。

市民、企業も市政に参加していただき、一人ひとりが幸せのど真ん中にいると実感できるように、今後 10 年間、市民、職員とともに築き上げていきたい。

ありがとうございました。

（事務局）

閉会いたします。ありがとうございました。

［移動して別室で委員全員の写真撮影］

［会長から市長への答申の写真撮影］